

全国患者図書サービス連絡会 講演会

『さまざまな立場の当事者が情報リテラシーを育む場としての図書館』

私たち、全国患者図書サービス連絡会では、病院や図書館における患者図書サービスにおいて、患者さん自身(あるいは家族や友人など)が、当事者のからだや病気のことについて、さまざまな情報を検索し、あるいは多様な治療法や生き方に会いながら、自己決定を行うための手助けとなる環境づくりを目指してきました。

今回の講演会では、「当事者が情報リテラシーを獲得していくことの重要性」をテーマに活動が続けているお二人に講演をお願いします。

記

日時:2017年7月15日(土) 13:00~17:00(受付 12:30~)

会場:日本図書館協会 研修室 (http://www.jla.or.jp/traffic_guide/tabid/75/Default.aspx)

〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14

(地下鉄東西線・日比谷線 茅場町駅徒歩7分)

参加費:会員:1,000円、非会員:1,500円、学生:500円

参加申込:次の項目を記して、記メールアドレス宛へお申込み下さい。

1)記入項目 ①お名前、②所属、③e-mail アドレス

2)送信先:全国患者図書サービス連絡会事務局

E-mail: info@kanjatosho.jp

<プログラム>

12:30 受付開始

13:00 講演1. 『図書館員に必要なアクセシビリティをマネジメントする力』

講師:成松一郎氏(読書工房代表)

15:00 講演2. 『患者にとって本当に必要な情報リテラシーの話』

—当事者が情報を伝える立場になって見えてきたもの—

講師:森田茂樹氏(患者ボランティア)

17:00 閉会(※進行状況により時間が前後する場合があります。)

○問合せ先

全国患者図書サービス連絡会

HP: <http://kanjatosho.jp/index.html>

事務局 E-mail: info@kanjatosho.jp

〈講演内容〉

今回の講演会では、「当事者が情報リテラシーを獲得していくことの重要性」をテーマに活動を続けているお二人に講演をお願いします。

まずは、障害当事者やサポーター向けの書籍を出版している読書工房の成松一郎氏に、「図書館利用に障害のある人へのサービス」というコンセプトがいまこそ必要とされていること。また、そのコンセプトを、公共図書館や大学図書館が日常的におこなっているレファレンスサービスの延長線上に位置づけるべきであることについてお話しいただきます。

つぎに、40代後半で網膜色素変性症という特定疾患の難病患者となり、長年勤めて来た仕事を辞め、3年間引きこもり生活を送った後、拡大読書器などの視覚補助具と出会い、読み書きを復活させる体験を経て、患者の立場から大学病院などで「患者ボランティア」として、全国のロービジョン当事者への情報提供を約20年にわたり続けている森田茂樹さんに、障害当事者自身が医療や教育・福祉サイドからの情報を鵜呑みにするのではなく、自ら情報を集め、判断しながら、暮らしていくことの大切さをお話しいただきます。

講演 1: 『図書館員に必要なアクセシビリティをマネジメントする力』

講師：成松一郎氏(読書工房代表)

○日外アソシエーツ、国土社などで書籍やデータベース編集の仕事に従事。そのかわり、学生時代より、障害当事者の自立生活運動や、障害学生支援の活動にかかわる。2004年4月、読書工房を設立し、出版事業を始める。2009年より7年間、大学の図書館司書課程で「情報アクセシビリティ論」などを担当。著書に『五感の力でバリアを超える—わかりやすさ・こちよさの追求』(大日本図書)、編著書に『多様性と出会う学校図書館—一人ひとりの自立を支える合理的配慮へのアプローチ』(読書工房)などがある。

講演 2: 『患者にとって本当に必要な情報リテラシーの話』

—当事者が情報を伝える立場になって見えてきたもの—

講師：森田茂樹氏(患者ボランティア)

○自身が網膜色素変性症の患者であり、自宅で非営利の「拡大読書器展示ルーム」を開き、補助具の展示紹介と情報提供も行う。長年にわたり、国公立の大学病院眼科で「患者ボランティア」としてロービジョンケアを担当した後、現在は日本点字図書館で隔月にロービジョン者への視覚補助具についての相談・説明を行うほか、各地の公共図書館などで講演活動を行う。著書に『拡大読書器であなとも読める書ける』(大活字)、共著に『マイノリティ—の社会参加—障害者と多様なリテラシー』(くろしお出版)がある。